

南空知地区

新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

私は2021年に親元就農をしています。

前職は総合化学メーカーに10年勤めていましたが、基幹的農業従事者の減少、高齢化が課題となっていることを知り就農を意識し始めました。

父親の年齢や営農技術を学ぶ時間を考慮して、自分が30歳のタイミングで就農を決意しました。

【就農して感じたこと】

就農してまず驚いたのは、農業の生産技術の進歩についてです。幼い頃に両親の農作業を間近で見ていましたが、その頃の農業よりもはるかに効率化されており、作業精度も大きく向上していました。

また、交付金や補助金などが多く、複雑な農業情勢に対して、自ら情報を取りに行く必要性や集めた情報を精査する能力の重要性を強く感じました。

2025年9月取材

大友 翔平さん（美唄市）

就農年:2021年4月

経営形態:土地利用型農業

作物:水稻・小麦・大豆

【就農して苦労したこと】

生産技術が進歩している中で、現在でも勘やコツなどの感覚的な表現が多く、言語化されていない技術が技術伝承の弊害となっていることに苦労しました。また、農業者の常識と私の常識にギャップがあり、刷り合わせの中で父親と衝突することもありました。

【栽培について】

水稻を15ha、小麦を5ha、大豆を5ha栽培しています。

農業従事者が減少し労働力の確保が課題となるため、作業の効率化を意識して営農しています。就農したときは小さいほ場が複数あり管理に工数がかかる状況だったので、自身で区画整備ができるように整備用機械を導入しました。

また、ドローンやISOBUS規格の機械などを導入し作業の効率化を進めているほか、栽培技術では水稻の直播栽培を導入し省力化に取り組んでいます。

【区画整備されたほ場と整備用機械】



一区画0.2haのほ場から一区画最大5haに整備したことでの作業効率が向上しました。また、ほ場の高低差を均平化することで水稻直播栽培を導入することができました。

【地域との関わり】

地域貢献ができると考へて、作業効率化のために導入した機械を活用して同級生の農家と一緒に地域の作業受託を行っています。

年に2、3回は考え方の違いから他の農家の方と意見が合わないこともあります、JAみねのぶ青年部の活動を通じて地域と関わることで上手くコミュニケーションが取れていると考えています。

【農作業に活用しているドローン】



自分ひとりでも管理作業ができるようにドローンを導入しました。機体の導入や資格の取得に活用できる補助制度があったのでスムーズに導入することができました。

自分のほ場の管理作業以外にも地域の農業者の防除作業を請け負っています。また、地域外の農業者からも依頼をいただき、ドローン以外の作業機も併用することで①肥料散布②播種作業③管理作業④収穫までの一連の農作業を受託しています。

【オフタイムの過ごし方】

12月～3月は生活拠点を東京に移しています。農繁期には関われない、様々な人との交流や情報収集の時間、じっくりと営農計画を考える時間などにしています。

【ほ場での作業風景】



作業の効率化や栽培技術の変化で自分の時間が増え、情報を集める時間や委託作業を請け負う時間を作ることができました。充実した農業ライフを楽しんでいます。

【オフタイムの大友さん】



【栽培中の水稻】



作物の栽培では適期作業を意識しており、作物の生育ステージを考えながら作業計画を組み立てています。

特に近年は気象条件が過去とは大きく変化しているので、積算温度を調べたり実際の生育状況を観察しながら計画を練り直す等、日々勉強を繰り返しています。

【今後の展望】

農業者が減少していく中でも農家は日本の食を支えていかなければならないので、個人としても生産能力を高めていくことが必要と考えています。また作業受託組織を通じて地域貢献や人材の雇用、新たな農業者の育成などができるべと考えています。

【今後、就農する方々に伝えたいこと】

農業が好きで就農を目指している方は自分の理想の農業ライフを具体的にイメージしましょう。逆算して段階的に必要な設備、機械、土地、資金をまとめると必要な知識、行動が明確になると思います。

ビジネスとして就農を目指している方は情報をたくさん集め、それを精査する能力が重要だと思います。多くの人と交流して成功談だけでなく失敗談を聞いてください。

失敗談にもそれに費やした時間と費用がかかっているので、同じミスをしないように先人から学ぶだけでも大きく結果は変わります。